


第3章 目指すべき次世代の県土のすがた(2030)

2030年の県土のすがたとして

活力があり・美しく・楽しい山形 を目指す。

その内容を具体的に以下の3点で示す。

	安全・安心な県土で産業活動や広域交流を支える高速交通網などの社会基盤が整備された活力のある社会
---	--

安全・安心の確保は、豊かな県民生活や活発な経済活動において、欠かすことのできない課題であるため、水害、土砂災害、地震などの自然災害から県民の生命、財産を守るための施策を幅広く進めていく。

また、本県にはこれまで培われてきたものづくりを支える最先端の技術、国内外に誇れる文化や観光資源が多く存在する。あわせて、これらの地域資源に競争力の高い最先端の研究などを核とした新たな産業の創出も図られている。

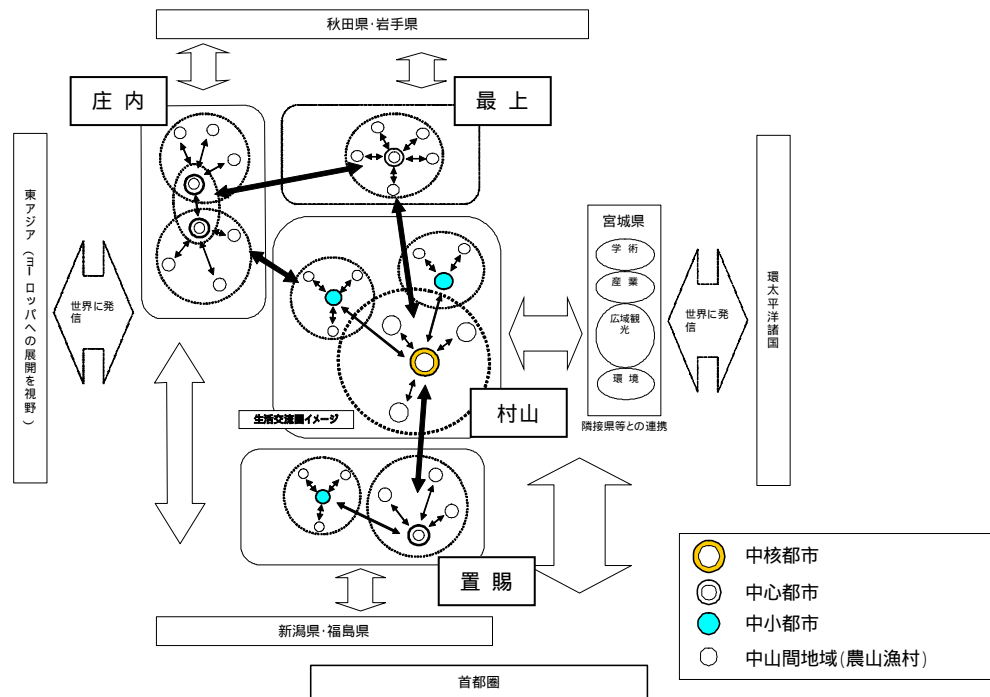
このような産業の力をより一層強固なものとし、地域の特色や強みを活かしながら、県境や国境を越えた他の地域と、より目的を重視した交流・連携を進めていく必要がある。

一方で、都市と中山間（農山漁村）地域が様々な交流を行い、お互いの魅力や機能を受け入れあいながら、人口減少・高齢社会においては、新しい産業の創出や新たなライフスタイルの普及定着等に取り組み、暮らしやすく、活力ある「生活交流圏」をつくっていく必要がある。

こうした、「国内外との県境を越えた交流・連携」や「生活交流圏相互の交流・連携」、さらに「生活交流圏内の交流・連携」等多様で階層的な交流を支える基盤として、高速交通網をはじめとした交通基盤の整備を進めていく。

このようにして安全・安心な県土のもとで「活力ある山形」が形成されている社会が実現する。

「生活交流圏」は「やまがた総合発展計画」に位置づけられている。本県においては、歴史的・文化的一体性、自然条件や地形的なまとまりを有する村山、最上、置賜、庄内の4つの地域を圏域として、その中心都市（山形市、新庄市、米沢市、鶴岡市・酒田市）を核に、日常的な生活サービスを楽しむために「生活圏」が形成されている。これからは、人口減少のもとでも、生活に必要な都市的サービスなどを維持するとともに、圏域内外での多様な交流を通じて、地域の活力を維持・向上させるという観点から、従来の「生活圏」に代えて、生活と交流が一体的に展開される「生活交流圏」を位置づける。生活交流圏は、県民の生活行動の広域化等を踏まえ、村山、最上、置賜、庄内の4地域を基本とする。



**最上川などに代表される山形固有の自然環境、地域文化、県土景観が
保全・継承・創出されている美しい社会**

本県は、自然環境、地域の文化や歴史、県土景観や県民の暮らしぶりを含めた多様な魅力が組み合わさり、全体として山形らしさを形づくっている。

悠久の最上川や秀麗な山々等山形固有の自然環境や、上杉氏や最上氏等の城下町として地域独自の風土と歴史が受け継がれて豊かな地域文化が形成され、また、実り豊かに微笑する大地¹と表現される美しい県土は県民共通の貴重な財産である。

しかしながら、これらの財産は、常に磨き続け、輝きを増す努力を惜しんではならない。つまり、豊かな自然や文化は積極的に保全継承しなければ、埋もれ滅びていくものであるからである。

県土の景観形成については、「山形県県土景観ガイドプラン」²にあるように、「月山、鳥海山等の山岳と最上川の映える景観」、「市街地、田園、樹林地の三重構造の作りだす階層性が感じられる景観」、「県の玄関口にふさわしい装いの景観」を目標像にその実現を目指し官民連携し取り組んでいく。

このようにして、「美しい山形」が県民の大きな財産として未来に引き継がれている社会が実現する。

1 明治11年に東北、北海道を旅した英国人旅行家イザベラ・バード女史が著した「日本奥地紀行」の中で、山形県置賜地方を通った折に米沢平野の風景と人々の暮らしぶりを見て「実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア(桃源郷)」と賞賛している。

2 「山形県県土景観ガイドプラン」は、広域的な観点から県土の景観形成の枠組みを示すものとして平成7年6月29日に策定した。



地域のシンボル「月山、最上川」の眺望
(寒河江市から)



出羽三山御子修行
(鶴岡市)



景観整備を進めた「銀山温泉」(尾花沢市)

人々との協働による取り組みが活発で次世代につなぐ持続可能で楽しい社会

本県は、多くの担い手が協働して、色んな目標に向かってねばり強く対応できる県民性を有しており、これまで、多彩な魅力のある地域社会を創り上げ県民の幸福度を高めてきた。

例えば、庄内平野で生活する人々は、冬季風浪で生じた飛砂によって古くから暮らしを脅かされ続け、砂丘地への植林でこの問題を解決してきた。海岸砂防林はこの地域の歴史的資産であるとともに、このクロマツの砂防林に縁取られた白砂青松の砂丘と鳥海山との素晴らしい自然景観が受け継がれている。

これからの成熟社会においては、「経済的豊かさ」とともに「質的な豊かさ」が求められ、社会基盤は県民生活の身近な道具（施設）として、使い勝手の良い道具を、工夫を凝らして作り、うまく使いこなし、長く使い続けるという持続可能な社会を形成することが、益々大事になっていく。

そのためには、計画段階から住民の意見を聞き、整備・維持管理までも一緒に考え、地域の実情に応じた柔軟な取り組みも取り入れ、様々な課題に、県民と行政とが連携・協力しあいながら、自主性・主体性をもった地域社会を作っていく必要がある。

このようにして、多種多彩な力が結集し、地域活力の源泉となり、ものを作り、使い続けながら「楽しい山形」が創造されている社会が実現する。



地域活動「六十里越街道トレッキング」(西川町)



河川アダプト「河川敷ゴミ拾い」須川(上市市)



道路美化活動「町内花いっぱい運動」
一般県道天童停車場若松線(天童市)



河川アダプト「子どもたちといっしょの美化活動」
法師川(河北町)